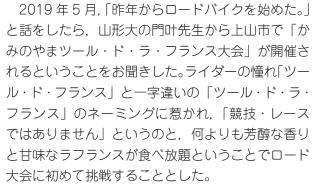
OFFE BREAK

こーひーぶれいく

挑戦, 「ツール・ド・ラ・フランス」

ニツ川 章二

Futatsukawa Shoji



前夜祭では、優良農家によるラフランス品評大会に参加でき、同じラフランスといえども食べ比べると香りも味も違うことがよく分かった。翌日の本番が気になりながらも、上山ワインと山形地酒を十分に堪能した。

11月10日(日),少し寒いものの天候は晴れ。参加したロングコース(60 km)は参加者が620人,全体で約1,000人が参加した。ロング参加の出発時間が近づいたためスタート地点に行くと既に色とりどりのライディングスーツを着た参加者が広場をぐるりと取り巻いていた。先頭が出発したのが8時10分,事故防止のため順次スタートし、最後尾近くでのスタートは8時30分ごろとなっていた。

最初は田園の中を穏やかに走り、5 km ほど行くと 急激な登りが始まった。ヒルクライムかと思うような 登りは日頃平坦な荒川サイクリングロードしか走っ ていない身には堪えた。急激な登りは3 km 程度で 終了。約15 km 地点で第1 休憩所に到着。水分補 給とともに、ラフランスと山形名物「こんにゃく団 子」がふるまわれた。ラフランスは皮付きと皮無し、 皮付きも食感が良く、疲れた体には食べやすかった。 そこからの10 km は急激ではないがすべてが登



大会オリジナルジャージ

り。パンフレットには「起伏にとんだロードでかみのやまの雄大な自然が楽しめる」と書いてあったのにと思いつつ頂点までひたすら登り、折り返し点からの下りの 10 km はジェットコースター。よくこんなところを登ってきたものだと自分に感心しながら下った。下りきって田園の中を少し走ると第2休憩所。ここでも水分補給とラフランス、糖分補給のためにラフランスの飴もふるまわれた。

ここからの 10 km は起伏のあるコースを本日の最高地点まで登りきる。最高地点では暖かい麦茶とスポーツドリンクで水分補給、当然ながらラフランスも食した。ここの折り返し点からもジェットコースター。九折のカーブはブレーキを使わないと恐ろしかった。最後の約 15 km は、市民もめったに行かないという生居川ダムコース。短いながらも本日一番の急激な登り。最後にこれを走らせるのかと憤りながら登った頂点で、ボランティアの「よく頑張った」の一言に救われた。ダムを渡りきると最後の第4 休憩所。水分補給と最後のラフランスをたくさんいただいた。

ここから緩やかに下り、田園の中を走って、休憩を含めた約3時間でスタート地点に戻ってきた。なんと、ゴール地点ではさらにラフランスがふるまわれ、1年分のラフランスを食べた思いがした。

最後にふるまわれた山形名物の「いも煮」とおに ぎりで腹ごしらえをし、入浴券でかみのやまの温泉 に入って満足感たっぷり。もし、ワレもと思われる 方がいらっしゃれば、次はご一緒に参加しませんか。

((公社) 日本アイソトープ協会)